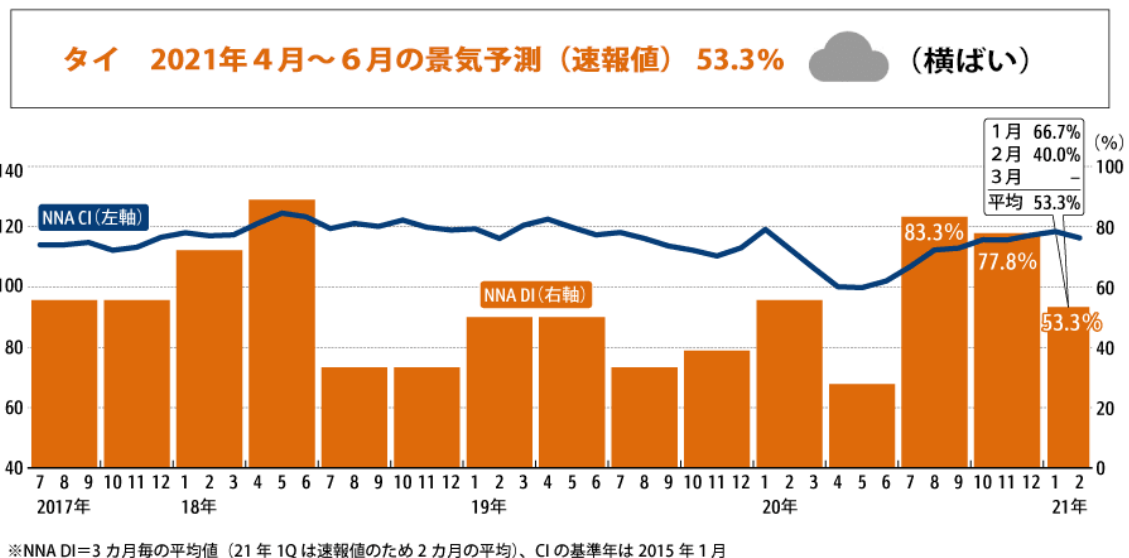


2021年4月19日

## 【タイ】NNA 景気指数 2021 年第 2 四半期予測



### ■ 景気回復が一巡、下降局面入りも

- ・景気指数は2月にやや下落
- ・景気回復が一巡、下降局面入りも
- ・消費停滞で輸出が回復の鍵に

### <経済アナリストの目>

総人口7千万人に対して、3月末時点の累計感染者数2万9千人、死者94名と新型コロナウイルス感染症の拡大を抑制することに成功しているものの、年末より感染者が増加し2月上旬には一日の感染者数が週間平均ペースで一時900を超えた。その後3月に感染者数は減少したが4月に入り再度増加し、感染拡大防止策の実施を余儀なくされている。2月28日にワクチンの接種を開始したが、3月末現在で累計接種回数は10万件あまり、少なくとも1回接種した人は全人口の0.1%に留まり、ワクチン接種の進捗は限定的である。観光業の回復が経済回復のキーファクターのひとつであるため、ワクチンを接種した外国人旅行者を検疫隔離免除で受け入れる実証実験をプーケットで実施する予定でいたが、第3波の拡大により実施時期が不確定となっている。

タイの場合、データの開示日程の関係から、1～2月の2カ月の指数の平均で2021年第2四半期（4～6月）の景気動向を見る。景気の現状を指数化したNNA CIは、1月までほぼ8カ月連続で上昇して118.4をつけた後、2月には116.3と小幅ながら下落した。

1月の118.4は、新型コロナウイルスの感染拡大が始まる昨年1月のピーク119.1に匹敵する水準。2月は、感染症対策の強化などが伝えられ記事センチメントが悪化したこと、好調だった付加価値税収の伸びがマイナスに転じたことなどが、指標の頭打ちの原因となった。

景気の方角感を表すNNA DIは、1～2月の2カ月平均で53.3%となった。この指標は、製造業生産、付加価値税収、自動車販売台数、輸入数量、要求払預金、記事センチメントの6指標のうち、いくつかの指標が3カ月前から改善しているかを見るものである。2カ月間のNNA DIは「くもり」のレンジにあり、これまで続いてきた景気回復は一巡し「横ばい」となると示唆している。

ただ月次の指標を見ると、12月の83.3から1月は66.7に下落、2月にはさらに40%に下落している。記事センチメントに加えて、自動車の国内販売台数や付加価値税収の伸びが鈍化し、DIの月次指標の低下をもたらしている。今後さらに3カ月前の水準から改善を示さない指標が増えると、景気は下降局面に移行する可能性がある。

国内総生産（GDP）成長率について、政府は20年のマイナス6.1%からの回復を想定して、21年の目標を4%としているが、財務省財政事務局（FPO）の見通しでは、輸出や民間投資の伸びと外国人旅行者の回復が4%目標の想定には届かず、今年のGDP成長率が2.8%になると予測しているとNNAは伝えている。こうした中、タイ政府は2月、経済回復と環境対策を同時に推進する「BCG（バイオ・循環型・グリーン）経済」を5カ年計画として立案し、環境保全や生物多様性など7つのワーキング・グループを設けて規制緩和や投資促進を図る方針を明らかにしている。

日本格付研究所 チーフアナリスト 増田 篤

#### <タイ編集部目>

2020年末にタイで発生した新型コロナウイルス感染症の流行の第2波は、2月以降収束の兆しを見せていたが、3月中旬から再びクラスター（感染者集団）が発生し、一進一退の状況が続く。一方で、2月末からタイ国内で新型コロナのワクチン接種が始まり、4月からは新型コロナ変異株が流行していない国・地域からの入国者の隔離期間が従来の14日間から10日間に短縮されるなど、経済の本格回復に向けた動きも出ている。

第2波の経済への影響については、タイ中央銀行（BOT）が3月下旬、21年の国内総生産（GDP）成長率を3.0%と予測し、昨年12月に示した3.2%から下方修正している。中銀は第2波の影響に加えて、外国人旅行者の受け入れが遅れていることも理由に挙げた。

タイ政府は、3月中旬に首都バンコクで再びクラスターが発生したことなどをを受けて、昨年3月から発令している非常事態宣言の期限を5月末まで延長。政府は経済・社会活動の規制と緩和のバランスを取りながら対応してきたが、引き続きコロナ対策が国内経済を左右することになりそうだ。

一方足元では、2月末に始まった新型コロナのワクチン接種が感染リスクの高い13都県で進んでいる。日本を含めた新型コロナ変異株が流行していない国・地域からの入国者の隔離期間も短縮されたため、ビジネス客の往来がしやすくなるとみられる。

タイの主要産業である自動車の生産台数を見ると、世界経済の前年の落ち込みからの反動を受けて輸出向けが回復しており、2月は前年同月比3.1%増加した。国内市場向けの生産は第2波の影響

で微減だったものの、3月下旬から4月上旬に開かれた自動車展示・販売会「第42回バンコク国際モーターショー」の四輪車の成約台数は、昨年7月に開かれた前回と比べて52%増加。モーターショー主催者は「消費者の購買力が落ち込んでいるわけではない」との見方を示す。

第1四半期の二輪車の新規登録台数を見ても、前年同期比1.2%増と回復。3月の登録台数は前年同月比16%増の17万台と、2018年6月以来の多さとなった。とりわけ地方での登録台数が堅調に伸びた。

上向き傾向にあった国内消費市場にとっての懸念材料は、新型コロナの新たな流行の行方だ。4月以降、英国型変異株の感染が拡大していることを受け、同月10日から始まったタイ正月（ソクラーン）の連休を前にバンコクを含む41都県で娯楽施設が閉鎖され、旅行を控える人も増えている。今後は国内消費が再び停滞することも予想されるだけに、1～2月の累計で前年割れとなっている輸出がどれだけ回復するのも鍵となりそうだ。

NNAタイ前編集長 京正裕之

詳細は  で検索

#### 【景気判断基準】

##### 景気判断基準

80%～	快晴		景気は良くなる可能性大
60～80%	薄日		景気はやや良い
40～60%	曇り		横ばい
20～40%	小雨		景気はやや悪い
～20%	大雨		景気は悪くなる可能性大

#### 【留意事項】

本レポートに掲載されるNNA景気指数（NNA指数）は、株式会社NNA（以下、弊社）が情報提供を行う目的で作成したものです。NNA指数の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートに記載した弊社及び株式会社日本格付研究所（JCR）の見通し、予測、予想、意見等（以下、見通し等）は、NNA指数作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また本資料に記載した弊社およびJCRの見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。

NNA景気指数の著作権は弊社に属し、第三者への無断開示、転用は固く禁じます。なお、JCRウェブサイトへの掲載については弊社とJCRとの合意に基づき行われております。